

ポーリッシュポタリーショップ

松山 莞太

冬にしては珍しい、雨が滴る夜にミュンヘンクリスマス市を訪れた。その一角に、アグニェシュカ・ポヒワさんが運営する、ひとときわ風情のある落ち着いた雰囲気のパワーランド陶器のお店があった。

多くの人を立ち止まらせるその陶器たちは少々黄みがかっており、花や水玉といったカラフルな模様を浮かべている。形は大小様々あり、お茶碗からマグカップ、お皿まで多種多様である。ポヒワさん曰く、日本食から洋食まで幅広いジャンルの料理



に合うという。確かに、カラフルでありつつ落ち着いたお皿は、ゆったりと過ごしたい食事の時間にならどんな料理もマッチしそうで、お寿司やスクランブルエッグなどを乗せても合いそうだ。

この陶器の起源は中世にまで遡る。

ポーランド南部の町で取れた砂を粘土にし、様々な色のついた模様をスタンプにして表面に配置して焼き上げる。この伝統の陶器は昔から受け継がれており、何度か波を繰り返しながら今ポーランドでは再びブームになっているという。ポヒワさんの実家でも使われていたそうだ。

この陶器は丈夫で、オーブン・電子レンジ・食洗機・冷凍庫ともに大丈夫で、実用にも十分耐える作りとなっている。そしてお店では、模様や形の質が良いもののみを取り扱っているそうだ。これから寒くなる季節、このポーランド陶器で家庭の食卓に一縷の温かみを添えてみるのはいかがだろうか。

(まつやま・かんた 2018.12.4)



ポーランド&ニッポン歳時記 28



猫

我が家の近所に野良猫が何匹か棲んでいます。住民たちが餌をやって養っていますが、最近彼らに小屋まで建ててやりました。これでもう猫たちも厳しい寒さから身を守れることでしょう。

na wielkiej klapie

ごみ箱の

śmietnika w środku zimy

蓋に鎮座す

kot jeszcze większy

冬の猫

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

krople na szybie

窓たたく

deszcz do taktu przygrywa

雨に合わせて

skrzypiec głosowi

バイオリン

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョトル・ヴジェチョノ

岩見沢市、霜田千代磨

うらめしや子持ち 緋くち開けて
若僧の歳末勤行いきいきと
熊笹の風除ビュウビュウ鳴りどおし

平取町立二風谷アイヌ文化博物館で今秋

第25回特別展「プロニスワフ・ピウスツキのみた平取」(仮称)を開催

近代のアイヌ文化研究をリードした人類学者のひとりであるプロニスワフ・ピウスツキ(1866-1918)は、1903年の北海道調査などで沙流アイヌと交流し、多くの学術資料を後世に残しました。

本展では、明治後半代を中心とした氏の調査概要や時代背景・地域住民との出会い・収集資料(音声、写真、民具等)の紹介を通して、一連の研究の今日的意義を考えます。また、B.ピウスツキを介して近年活発に行われるようになった二風谷アイヌ文化博物館とポーランド各地の博物館との交流の

成果を広く一般に紹介します。

開催日時は2019年10月1日(火)～12月1日(日)、場所は当館内の特別展会場です。

2019年は日本・ポーランド国交樹立100年の記念の年ですので、当展示でもできる限り、日本語とポーランド語を併記するよう計画しています。

北海道在住のポーランドの方々及び関係者にもぜひご覧いただきたいと思っておりますので、今後とも当館事業にお力添えをよろしくお願いいたします。

(平取町立二風谷アイヌ文化博物館学芸員 長田佳宏)